

一般社団法人日本癌治療学会では、日本のがん医療の発展と進歩を促進し、国民の福祉に貢献することを目的として、日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度（以下、本制度）を設け、認定がん医療ネットワークナビゲーター・シニアナビゲーターの育成を行っています。がん患者さんやご家族の不安や悩みに耳を傾け、信頼できるがん情報を提供したり、がん相談員のいる「がん相談支援センター」などの窓口につなぐ重要な役割を果たしています。具体的には、地域社会で、がん患者さんやご家族に寄り添い、がんに関する正確な情報を適切・的確に提供します。さらに、がんの治療などにおける道案内の役割を担い、がん患者さん・ご家族の支援を行っています。

一方、第4期がん対策推進基本計画（令和5（2023）年3月策定）において、「国は、拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討すること、あわせて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、『社会的人材リソース』を活用し、必要に応じ地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討する」として、相談支援に関わる人材と拠点病院との連携体制構築の重要性が示されました。さらに、「社会的人材リソース」として、関係学会等によるがんの相談支援・情報提供に関する一定の研修を受け、必要に応じ、がん患者やその家族等に対し、拠点病院等のがん相談支援センターを紹介できる地域の人材等が想定される、として、日本癌治療学会認定がん医療ネットワークナビゲーターの人材育成および連携における拠点病院の役割について言及がなされました。「社会との連携に基づくがん対策」を実現するために、地域の医療関係者、ピア、患者会・患者支援の関係者との連携は重要になってきており、がん診療連携拠点病院等の現況報告書などでその実態を報告するようになってきています。

がん診療連携拠点病院など、地域のがん患者さんやご家族を支える医療機関の皆さまにおかれましては、地域のがん医療ネットワークの強化と身近な相談人材の育成に向けて、日本癌治療学会認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター実地見学希望者の受け入れについて、ご理解ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。